

人権が尊重される授業づくりを進めるための有効な手立て レシピ集

「人権が尊重される授業づくりチェックリスト」で点数の低かった項目を高めるためのレシピです。なお、㊦～㊨の記号は、「人権が尊重される授業づくりチェックリスト」の㊦～㊨の記号と一致しています。

I 【ペアトーク㊦】【グループ発表、お互いの発表・評価の場や認め合う場の設定㊦㊧】【意見の練り合い・高め合い㊦】

- 互いの意見を聴き合う時間であることを確認する。
- 話の仕方（話型）、聴く姿勢を提示しておく（相手の顔を見ながら聞くなど）。
- 何について話（評価）をするのか、明確に意識させる（具体例を挙げるなど）。
- どちらが先に話すか、話す順序を決める。
- 発表するときに、自分の思いや考えも言わせるようにする。
- 友だちが課題についてどのように考えたのか、別の児童生徒に説明させる方法もある。

II 【書いたものを見せる㊦】

- 実物を見せることで相手に分かりやすく伝えることができる。そのためにICT機器（書画カメラ等）を活用して、子ども自身のノートを写すことが考えられる。

III 【旅行学習㊦】【教え合い・見せ合い㊦㊧】

- 旅行学習とは友だちの机を回り、作品や考えなどを見合う活動のことである。発表会のときに取り入れることができる。
- 見る視点をもって活動させる。
- 最低（ ）箇所、（ ）人は旅行するなど、条件を示す（人数等）。
- 事前に自分のサインを決めさせておき、見たらそのサインを書かせる。付箋に良いところを書いて貼らせる。「班ごと→号車ごと→全体」のように、段階を踏んで行くと誰でも同じ量のサインや付箋をもらうことができ、安心感が高まる。

IV 【意見を写す㊦】

- 相手の意見を受け入れる気持ちを育成するために、まずはどの意見も写させるようにする。
- 「～さんの意見を参考に」まで書くようにさせる。
- 慣れてきたらただ写すのではなく、他者の考えを自分の言葉に置き換えて書かせる。このことは、他者がどのように考えているか自分なりに考えることで、他者を理解しようとする気持ちにつながる。
- さらに慣れてきたら、疑問に思うところや意見としてもった気持ちも書かせる。
- 自分の考えをもてない子どもに対する手立て（考えをもつことに慣れる）としても有効である。

V 【発表の様子を見守る㊦】

- 発表が終わったら、まず聴いている子どもたちに反応させることで、発表した児童生徒との直接的なやりとりとなり、その子への関心が高まる。
- 子どもが発表したときに先生が最初に反応を見せると、あたかもそれが答えのように子どもたちが感じてしまい、発表した子どもの発言内容への関心が低くなってしまふことがある。それを防ぐた

めに取り入れるが、まず子どもたちの信頼の中心である教師が頷きながら話を聴いたり（聴き方の手本を示す）、その話について評価したりすることが大切である。

VI 【秘密のマイク団】

- 「このマイクを持つと、何でも話せるようになる秘密のマイクです」という暗示をかけ、自分の思いを安心して話せるような雰囲気をつくる。

VII 【リレー指名団】

- 偏った指名の仕方にならないように、「違う班の人」「違う列の人」を指名するなど、ルールを決めて指名させる。

VIII 【指名なし発表団】

- 自分の考えを伝えたいという気持ちや、自分の意見を聴いてくれていると感じ、伝えたいくなる雰囲気が必要である。互いを尊重し合う気持ちの育成につながる。
- 譲り合う気持ちが必要であることを伝える。
- 慣れるまでは子ども同士で指名させたり、「自分が言います」と宣言させてから、意見を言わせたりする。

IX 【自分の役割を探る場団】

- たけのこリコーダーやたけのこ読み（自分が決めたところを演奏したり読んだりする）などを行いながら、自分ができた、役に立ったところに喜びをもたせる経験を積み重ねていく。

X 【子どもたちによる学習課題設定団】

- 教師が提示した大きなめあてを基に、自分のめあてを立てさせる。そこでは自分自身、様々な考えがあってもよい。このことは一人一人子どもに応じた学習、違いを認めることを大切にしている。
- 予想を立てる場面がある場合はそれを交流し、自分の意見を認めてもらったり他者の意見を聴いてさまざまな考えをもったりできるような場面を設定するとよい。

XI 【グループ学習団】

- 司会・記録・計時・報告などの役割分担をする。3人が理想的。
- 役割は毎回変える（輪番制にする）。

XII 【振り返りカード団】

- 学習の振り返りに「自分が」「友だちと」「みんなで」のような人権の視点を入れた評価項目を入れる。

以上のような、人権教育の視点に立った授業を進めていく際の主な視点や、人権が尊重される授業づくりを進めるために有効な手立てを取り入れながら授業を展開していきましょう。

この「レシピ集」は佐賀県人権・同和教育研究協議会人間関係づくり研究委員会『子どもと子どもをつなぐ～学校生活をより楽しくするために～』 2014年 pp.4-6を参考に一部加筆・修正しました。